

2023

INTEGRATED REPORT

2023年3月期

For the year ended March 31, 2023

XEBIOHOLDINGS

こころを動かすスポーツ。

XEBIO^{ゼビオグループ}GROUP

60th



02 イントロダクション
Introduction

企業理念・経営方針 Corporate Philosophy・Management Policy	02
グループステートメント XEBIO Group Statement	03

05 トップメッセージ
President's Letter

07 事業戦略・店舗紹介
Business Strategy・Store Introduction

事業戦略 Business Strategy	07
店舗一覧 Store Introduction	13

15 サステナビリティ
Sustainability

基本方針・推進体制 Basic Policy・Promotion System	15
5つのマテリアリティ〈重要課題〉 The 5 Materialities - Our Five Most Important Issues	16
■地域社会との共生 Coexistence with Communities	17
■お客様と健康で豊かなくらしの実現 Realization of Healthy and Comfortable Living for Customers	18
■サーキュラー・エコノミーの推進 Advancement of Circular Economy	19
■サプライチェーン全体のマネジメント Management of the Whole Supply Chain	20
■脱炭素社会の実現 Realization of Decarbonized Society	20

21 成長の軌跡
Growth History

23 コーポレートガバナンス・コンプライアンス
Corporate Governance and Compliance

27 会社概要
Company Profile

会社概要 Company Profile	27
経営体制 Management Structure	28

29 IR情報
IR information

企業理念

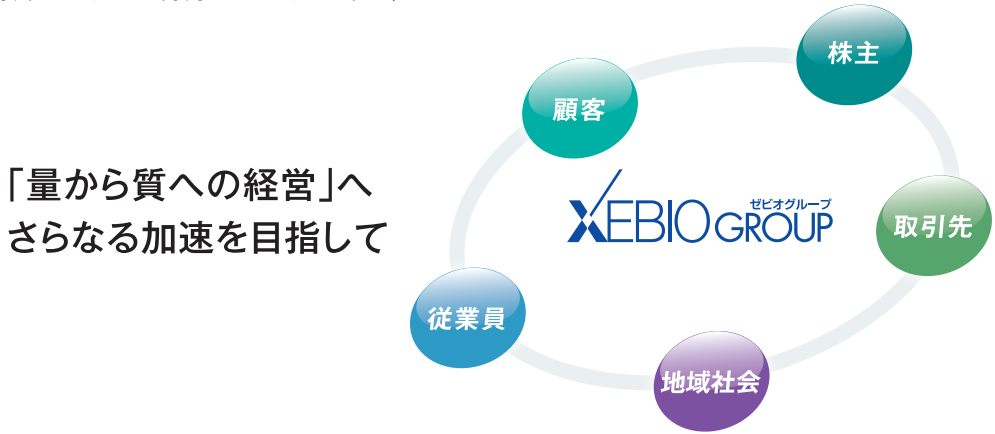
公正な競争原理のもと、良質な人材、資金、組織を作り
〈お客様第一主義〉にもとづいた事業活動を通じて、社会貢献を果たしていくこと

経営の基本方針

- 一、量的指標ではなく、質的指標としての数値目標を設定します
- 一、ナンバーワンではなく、オンリーワン企業として事業の質的拡大を図ります
- 一、株主様、お客様、お取引先様、従業員、地域社会それぞれにオンリーワンとして認識していただける企業を目指します

当社グループは、良質な人材、資金、組織を公正な競争原理のもとにつくることで、「お客様第一主義」にもとづいた事業活動を通じてお客様、株主様、お取引先様、従業員とともに成長し社会に貢献することを経営の理念としております。

スポーツ、ファッション商品を通して、お客様の求める最高の商品価値を創造、提供できる商品開発とショッピングそのものの楽しさやサービスを提供できる店舗づくりを継続的に実現し、「オンリーワン」企業になることを経営の基本方針として、日々努力を重ねてまいります。



社名の由来

XECHORISTOS + **BIO**S
(個性的な) (生活)

私たちは、「XEBIO」のXから限りなく伸びるアンテナで時代に応じ、時代を読み、時代を創る個性集団として、次なる時代を牽引しつづけていきたいと考えます。

社名XEBIOには、当社の社会的使命をこめ、社会に向かって発する宣言から由来します。XEBIOの語源は、すべての現代語の根幹とされるギリシア語を組み合わせで創造されたもので、分解すると上記のようになります。

Corporate Philosophy

Under the principle of fair competition, XEBIO Group will strive to contribute to society with our business operations based on the "Customer First Standard" by creating qualified human resources, financing, and structuring the company.

こころを動かすスポーツ。

スポーツに感動できるひとが たくさん住んでいる国は明るい国です。

スポーツの観戦で思うことがあります。

競技場を揺るがすほどの人間の渦の中で、これほど人が一体となり
歓び、驚き、悲しみ。悔しがり、涙するような気持ちを共有することが
ほかにどれほどあるのだろうか。

生まれも育ちもちがうこんなに多くのひとと 気持ちをひとつにできるのはなぜか。
その芽は、初めてスポーツをした頃から生まれているのではないか。

出来なかったことが初めてできた、自己ベストの瞬間。
勝利を掴んだ一瞬。
届かなかった一瞬。

ひとつひとつの大切な時間を積み重ねて
こころが感動することを覚えていく、おおきく豊かに育っていく。
スポーツに感動できる人がたくさん住む国の未来は明るい、わたしたちは信じています。

こころを動かす体験をひとつでもたくさん、あなたに。
ゼビオグループ、すべての人間の仕事です。



A Promising Future with a Country that Values Sports

We aim to spread the phrase "Sports that Move the Heart" as we believe that by bringing the excitement and aspirations of sports to people, we can create a future full of hope.



NO HEART, NO SPORTS. さあ、スポーツと未来へいこう。

ゼビオグループは、生まれて60年。
もっと、ずっと、スポーツが人の生きる力になるように。
こころを動かす新しい体験をひとつでもたくさん、あなたに。
ゼビオグループすべての人間の仕事です。

NO HEART, NO SPORTS.To the Future, with Sports

XEBIO was established 60 years ago. Everyone in XEBIO Group is committed to providing you the energy to live fully and to deliver more inspiring new experiences through sports.

スポーツで叶える。

わたしたちが生きるこの国で、
スポーツのちからで叶えられることは少なくないと考えています。

スポーツに熱狂する瞬間のよこびより、
その先の未来と一緒に考え実残するひとを求めています。

Fulfill Your Wish with Sports

We believe there is so much we can achieve with the power of sports in the country where we live. We seek talented individuals with foresight who are willing to pursue the future together as a team.



スポーツの国をつくろう。

この星に生まれたすべての人間には、
スポーツをする自由がある。

それは守られ、尊重されるべき権利ではないか。

すべてのひとがスポーツをしたいと願うとき
表現する自由を応援したい。

Let's Create a Sports Nation

Every person on this planet has the right to participate in sports with respect and assurance. We aim to support the voices of all people appealing to their wish to play sports.

詳しくはこちらから▶



NO HEART, NO SPORTS. さあ、スポーツと未来へいこう。

当社が創業から一貫して目指していることは、お客様第一主義に基づきひとりでも多くのお客様に感動価値を提供することです。

時流の変化により、地域のお客様が店舗に求めるニーズ、店舗の存在意義は変化しますが、スポーツの魅力と可能性を最大限に引き出し、それをビジネスとして価値に変えていくこと。そしてお客様との接点を通じて、スポーツをすることの「感動」をお客様と共有することが私たちスポーツナビゲーター®のミッションです。

当社は2022年に創業60周年を迎えました。この節目を「第三の創業期」と捉え、これからの100年を築き上げていくために、中長期的なマーケットの変貌に対応し、新しい時代を切り開くための業態開発、独自性を確保するための商品開発、そして人と人、スポーツと人の懸け橋となるスポーツナビゲーター®の育成により、オンリーワン企業として進化し続けていきます。

日本は今、様々な社会問題に直面しています。スポーツは国や言葉、年齢、宗教など様々な違いを超えて、人の心を感動で満ち溢れさせることができます。そして、スポーツに感動できる人がたくさん住む国の未来は明るいと、私たちは信じています。当社は私たちが掲げるグループステートメントを体現し、広く世間に発信していくことで、この役割を担っていきます。

私たちの未来にご期待いただくとともに、今後とも皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いします。

代表取締役
諸橋 友良



NO HEART, NO SPORTS. XEBIO Group Navigates You to The Future with Sports

Since our founding, we have consistently offered customers service with emotional value based on our "Customer-First" policy.

As of our milestone year of 2022, our 60th anniversary, we are going to proceed to be the exclusive company corresponding to the transfiguration of the medium-to-long-term market, developing to open new possibilities for the new age, unique product development, and educating Sports Navigators to act as a gateway between people and sports.

Japan is currently facing various social issues. Sports always ensure an emotional experience filled with joy, regardless of nationality, language, age, or religion. We believe those people affected by the pleasure of sports will lead the country to a bright future.

We kindly ask for your continued guidance and support in the days to come.

2030年に向けて、 そしてその先へ。

世代を超えて、国境を超えて、言葉を超えて、
感動というかけがえのない感情を共有できる「スポーツ」。
私たちゼビオグループは、3つの価値をご提供いたします。

「商品価値」「使用価値」「感動価値」それぞれの価値をご提案の中で
スポーツの持つ可能性を追求し、その価値の最大化に取り組み、
皆様の夢を叶えるお手伝いが、我々のビジョンであると考えています。

スポーツを楽しむすべての人へ。

スポーツによって非日常体験をテーマにした店舗は、お客様にワクワクしてご来店いただくために、店内には往年の名選手たちのユニフォームやサインが入った用具が並ぶ「スポーツの殿堂」などの演出とともに、圧倒的な品揃えと常に変化する売り場構成により、毎回訪れるたびに違う発見ができる空間づくりを行っています。

この中で、スポーツの楽しさを伝え、スポーツに大きな目標や夢を抱くことの大切さ、そしてスポーツを通して親子へ大切な想いをつなぐ橋渡しとなるような「心が躍る」「会話が弾む」「感動体験が得られる」、何度でも訪れたい場所となることを目指しています。

また、通勤や通学、何気ない日常生活の合間などに、ふと「スポーツをしたい」と思った時、すぐに立ち寄っていただける身近な場所にも店舗を設けることで、お客様の熱い気持ちやモチベーションをサポートし、都心部では、エキナカやエキチカなど「駅」を中心として毎日多くの人が行き交う場所に「スポーツカジュアル」を中心とした品揃えの店舗を出店。スポーツに対する幅広い客層をターゲットにした売場構成を行い、お客様のすぐ近くで夢の実現に向けたサポートをしたいと考えています。



2030 and Beyond

The values of sports give experience and can be shared regardless of language, age, nationality, or ethnicity. XEBIO Group strives to provide three individual values:
1) Product Value 2) Use Value 3) Emotional Value
Our mission is to offer customers opportunities in sports and maximize these three values to support our customers further to accomplish their goals and dreams.

地域を知り、根ざし、そして応える。

それぞれの地域特性に合わせたマーチャндаイジングを実現し、全国どこであってもその地域に愛される店づくりを行っていくことがオンリーワン企業を目指すゼビオグループの役割であると考えています。そのため、人口が多く情報発信力もある首都圏店舗では、実際にアスリートとして活躍する選手や販売のプロが店舗に立つことにより、そこで得たさまざまな最新情報を共有し、売り場づくりなど地方店舗にも即座に波及できる体制を整えています。

一方、地方では、店舗そのものがより深く地域に根ざす身近な存在となり、きめ細やかでスピーディにニーズにお応えできる運営を行っています。首都圏でも地方でも、その土地を熟知しお客様の声に応えることが結果的に地域活性化への貢献となるはず。それを推進していくためにも、全員が「こだわり」と「プライド」を持ったプロフェッショナル集団であり、常にお客様の期待以上の満足を提供し続けることにより、地域一番店の地位を築くことを目指しています。

ゼビオグループは、お客様のニーズに応える複数店舗業態の展開により、首都圏や地方をカバーできる総合力を高めています。



Understanding the Community, Developing Roots, and Responding to Needs

XEBIO Group arranges the product lineup to adjust to the needs of each local region, as we continuously work hard to be chosen from the people of that community. Stores in populated metropolitan areas deliver more specific categories of products and services, whereas suburban regions have an operation system to adjust and adapt to distinct needs. We carefully position our portfolios of retail store brands to respond to various environments and requirements.

「接点」を増やし、 ビジネスモデルの差別化を推進。

ゼビオグループは、一つの店舗の中で、お客様との「接点」を長く持ち続けることを強みとしています。それは、「スポーツナビゲーター[®]」と呼ばれる仲間の存在です。スポーツナビゲーター[®]は、初めてスポーツに触れる方から、さらなるレベルアップを目指すプレーヤーに至るまで、お客様との接点から「商品価値」「使用価値」「感動価値」の3つのバリューポイント[®]を提供しています。私たちは、「気持ちよく買い物ができた。また遊びに行きたい」と、スポーツをより身近に、より安心して、誰でも楽しんでいただけることを最大の喜びとして、スポーツ用品の定義を拡張し、スポーツ周辺を充実させる領域の最大化を推進しながら、スポーツを取り込んだ新たなライフ

スタイルの提案を目指しています。

ゼビオグループでは、スポーツと親和性のあるカテゴリーを事業や自社ブランドとして展開することにより、モノを買った後の悩みについて「コト軸」を中心にお客様のスポーツライフを総合的にサポートしています。「健康」や「未病」を目的に拡大するスポーツ人口への対応をはじめ、スポーツをする人の「より楽しく、より快適に」という想いに合致したモノからコト軸へのシフトは、ご購入いただいた商品に関する悩みなどを解決した上で、さらに新たなニーズを発掘することにもつながります。



Creating Strong Bonds with Customers and Differentiating Our Business Model

Every staff in XEBIO Group is a Sports Navigator[®]. Our Sports Navigators guide customers to meet their needs for all individual levels of challenge, building solid relations with the customer by offering our "Three Value Points." The Sports Navigators focus on how our products and services deliver the solution and essential value gained through sports.



新たなスポーツビジネスを創造し、価値の最大化を目指す。

ゼビオグループでは、様々なスポーツカテゴリーにおいて、常に新たなスポーツビジネスのありかたを追求しています。

ゴルフカテゴリーにおいては、プラットフォームの構築により、お客様に快適なゴルフライフとゴルフを通じた豊かなライフスタイルの提案を掲げています。そして、新品のゴルフクラブ販売、中古クラブの買取り及び販売、練習場経営やゴルフレッスンの展開、ゴルフ場予約サイト運営など、グループにしかない独自のゴルフビジネスネットワークを生かし、多角的にゴルフプレーヤーとの「接点」を持続けることを目指しています。

競技自体の魅力はもちろん、伝統やルール、礼儀といった教育的要素も含まれることから、永続的に多くのことが学べる

ゴルフは、老若男女問わず楽しんでプレーできる生涯スポーツです。私たちは「子どもから高齢者まですべての層にアプローチできる強み」「初心者からアスリートまで競技レベルに関係なくサポートできる体制」そして「地方や首都圏など地域特性に特化した店舗によるきめ細やかな対応と運営」という3つを軸に、ゴルフの魅力や素晴らしさを伝える役割を担っています。

ゴルフなどのスポーツの可能性を追求し、小売りにとどまらず、上達やスポーツ観戦の環境も提供しながら、今後シュリンクへ向かうと言われているゴルフマーケットの価値を最大化することで、今後の新しいスポーツビジネスのありかたにチャレンジしています。



Building New Sports Businesses and Maximizing Value

XEBIO Group continues to innovate the sports business industry and develop new norms. With the platform, we offer our customers a pleasant lifestyle through golf, using our unique business network and having various relationships with people playing golf. Customers can buy new or used products, trade in old golf clubs for cash or credit, obtain information, and receive personal lessons at one of our golf ranges. In these ways, we strive to create and grow the various Value Points we provide to each of our customers.

“スポーツの可能性”を最大限に引き出す。

人とスポーツの関わり方は、「する」だけでなく「仲間をつくる」「観る」「応援する」など多岐に渡ります。ゼビオグループは、「スポーツ」を起点にして、様々な業種・業態と協働し、「スポーツの新しい価値」を一人でも多くの方に提供していく「スポーツコングロマリット構想」のもと、コア事業である「スポーツ用品小売業」の他にも、様々なアプローチを試みています。

3人制バスケットボール「3×3」では、国際大会の誘致・開催や国内トップリーグの運営から全国各地でエンジョイ大会の開催までを展開し、競技の普及・発展に貢献しています。（写真2）また、アイスホッケーアジアリーグに所属する「東北フリーブレイズ」に対しては、クラブ経営や運営をサポートしています。（写真1）

地域に根ざす企業としてゼビオグループは、スポーツを通じたコミュニケーションの場を提供すると共に、競技人口の拡大

や青少年の育成、そして心身の健全な発展に役立ちたいと考え、サッカー・野球・バレーボール・フットサルをはじめとして、全国各地で様々な競技の大会やイベントのサポートを行っています。（写真3456）

これらの取り組みを通じて、私たちが標榜する「スポーツの国」の実現に向け、日本のスポーツ環境に変化をもたらし、全ての人が「スポーツ」で繋がり、新たなコミュニケーションが形成される社会の実現に向け活動していきます。



Expanding the Potential of Sports

There are various ways to be involved in sports. XEBIO Group collaborates with varied industries and business conditions based on sports and attempts different cooperative approaches with the conception of offering a new value in sports. We advocate the creation of a country with an innovative sports environment and actively engage to achieve a society and form an advanced communication style with people connected through sports.

ゼビオグループ 883店舗 (FC除く)
2023年3月31日現在

	看板	特徴	店舗数
■	THE SUPER SPORTS XEBIO	あらゆるスポーツ用品・用具を取り揃えた大型総合スポーツ専門店	172
	XEBIO SPORTS THE SUPER SPORTS XEBIO SPORTS EXPRESS	地域特性に合わせた品揃えとサービスを展開する総合スポーツ店	
※ ■	X'tyle	カジュアルスポーツウェアショップ	75
	next	世界36か国に700店以上を展開するイギリス最大のSPAブランド	
■	X'tyle vision	度付レンズ対応可能なスポーツサングラスを扱うスポーツメガネ専門店	28
■	Xiasis	アスリートのコンディショニングをサポートするスポーツドラッグストア	17
■	Victoria	都市型オールスポーツショップ	13
■	Victoria Golf	幅広い方に対応できる商品ラインアップとサービスのゴルフ専門店	165
■	L-Breath	ファッション感覚にあふれたアウトドア専門店	81
■	GOLF PARTNER	中古ゴルフ業界No.1のネットワーク、55万本の在庫からびったりの1本を	234
	FESTIVAL GOLF	中古ゴルフ業界のバイオニア、豊富な在庫と安心価格	
■	NEXAS Takeda Sports	北東北で地域特性に合わせた品揃えとサービスを展開する総合スポーツ店	29
■	TRANSVIEW	東南アジアにおけるゴルフ用品専門店	34
■	その他	ファンシー小物販売店、トレーニング機器展示販売店など、その他の専門店	35

※ルーキーUSA含む



スーパースポーツゼビオ
ららぽーと堺店



Double Eagle
GINZA店

出店店舗

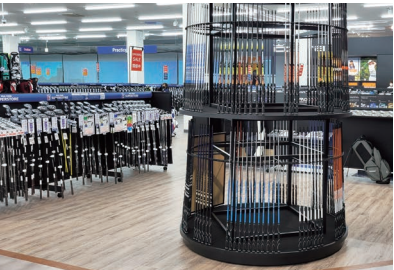
※一部抜粋



Victoria Golf
六本木店



スーパースポーツヴィクトリア
池袋サンシャインシティ店



PGA TOUR SUPERSTORE
札幌北広島店

九州地区

- 21店舗
- 20店舗
- 9店舗
- 26店舗
- 9店舗
- 3店舗
- 2店舗

中国地区

- 8店舗
- 6店舗
- 3店舗
- 12店舗
- 2店舗

北陸地区

- 6店舗
- 1店舗
- 5店舗
- 3店舗
- 3店舗

中部地区

- 13店舗
- 1店舗
- 12店舗
- 6店舗
- 20店舗
- 4店舗
- 3店舗
- 3店舗

近畿地区

- 18店舗
- 11店舗
- 11店舗
- 31店舗
- 10店舗
- 3店舗
- 1店舗

四国地区

- 5店舗
- 1店舗
- 3店舗
- 4店舗
- 3店舗
- 2店舗
- 2店舗

甲信越地区

- 15店舗
- 3店舗
- 8店舗
- 5店舗
- 4店舗
- 1店舗
- 2店舗
- 1店舗

東北地区

- 25店舗
- 22店舗
- 6店舗
- 18店舗
- 16店舗
- 7店舗
- 4店舗
- 16店舗
- 13店舗
- 12店舗

関東地区

- 49店舗
- 13店舗
- 70店舗
- 34店舗
- 93店舗
- 25店舗
- 5店舗
- 5店舗
- 18店舗

海外

- 15店舗
- 35店舗

北海道地区

- 12店舗
- 7店舗
- 9店舗
- 7店舗
- 2店舗

郡山本社

東京オフィス



ゴルフパートナー
あみ東インター店

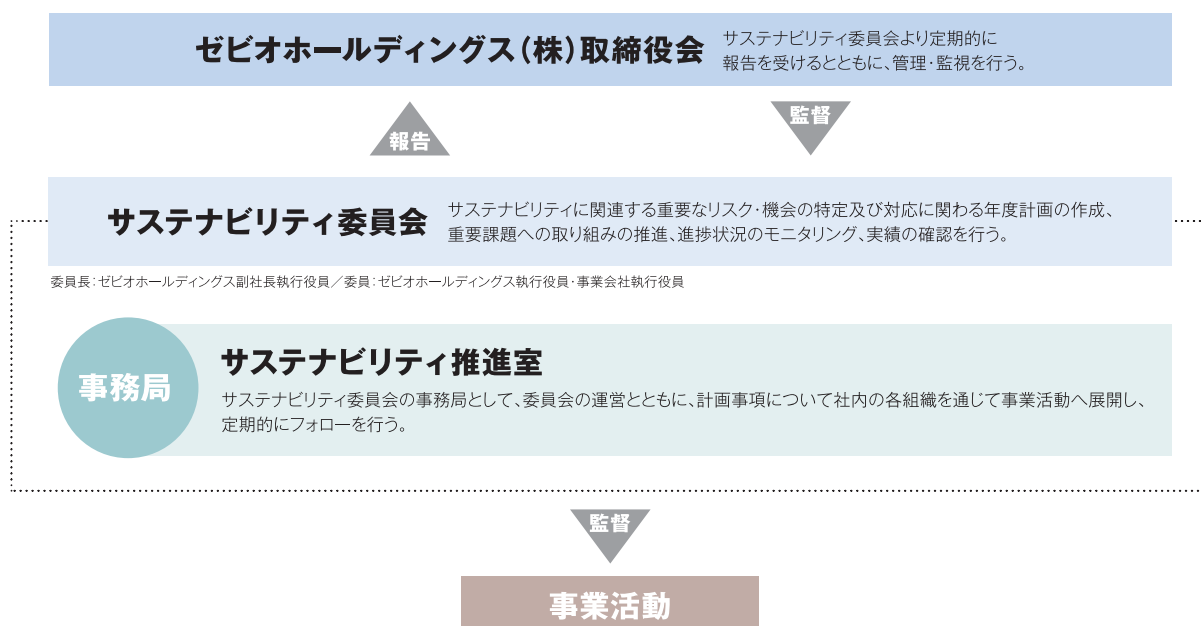
サステナビリティの基本方針

「希望に満ちた明るい未来」の実現。

ゼビオグループは、スポーツの持続的発展に寄与し、地域社会への貢献を行い、身近にスポーツがある健康的で充実した豊かな世界を創造することをミッションに、その実現に取り組んでいます。

その根底にある-Xebio Philosophy-をもとに、私たちゼビオグループは、スポーツを通じて「希望に満ちた明るい未来」の実現に取り組んでいきます。

サステナビリティ推進体制



Basic Sustainability Policy for the Hopeful Bright Future

XEBIO Group contributes to sustainable development in sports and is devoted to the community. As a mission, we aim to create a healthy, fulfilling, and abundant environment that leads to a hopeful and bright future with our basic "XEBIO philosophy."

5つのマテリアリティ(重要課題)

ゼビオグループは、持続可能な社会を実現していくためのテーマとして、5つの「マテリアリティ」を特定し、事業活動を通じてこれらの解決に取り組めます。

この5つの「マテリアリティ」は、ゼビオグループミッション「スポーツの持続的発展に寄与し、地域社会への貢献を行い、身近にスポーツがある健康的で充実した豊かな世界を創造すること」を具現化するとともに、「2030年度ゼビオグループの目指す姿」の重要な羅針盤であり、マテリアリティの特定と対応を通じて持続可能な社会の実現を目指します。



5つのマテリアリティ(重要課題)		主なSDGs	
地域社会との共生	地域の皆様と共に店舗を基点とした 人々が集う豊かな未来に向けた 街づくりの実現		
お客様の健康で 豊かなくらしの実現	未来に向けた お客様の心と身体を満たす Well-beingなくらしの実現		
サーキュラー・ エコノミーの推進	サーキュラー・エコノミーの推進による 未来に向けたサステナブルな地球環境と 企業成長の実現		
サプライチェーン全体の マネジメント	お取引様と共に創造する サステナブルな サプライチェーンの実現		
脱炭素社会の 実現	脱炭素経営を通じた 次世代へつなぐ 地球環境の創造		

The 5 Materialities - Our Five Most Important Issues

XEBIO group works to create a healthy and fulfilled life with sports, contributing to the sustainable development of sports and the local community. This importance plays an essential role in realizing the purpose that we aim for in the year 2030.



キャリア教育のサポート

インターシップ・職場体験／スチューデントシティへの参加



全国の店舗で、小中学生、高校生、専門学校・大学生までの幅広い学生を対象に、職場体験実習を実施しています。コロナ禍で実施件数は減少しましたが、ピーク時には年間で1,200名、200校を超える生徒の皆さんが職場体験をしました。体験実習では、「小売業とはなにか」「お客様へ接する心構え」を伝え、朝礼から商品整理、清掃などさまざまな業務を通じて、仕事の大切さや背景に多くの人が関わっていることを学びます。そして店舗は単なる商品販売の場ではなく、お客様のスポーツライフを支えるインフラ(場所)であることも感じてもらうことができます。また、就職を控えた学生の皆さんには、社会人としてのマナーやコミュニケーションの重要性を学び、新しい知識や経験を得て視野を広げるきっかけを提供できると考えています。



スチューデント・シティは、公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本(JA Japan)と教育委員会が共催し、小学5、6年生を対象に職場実体験を行うプログラムです。実際の活動を通じて、社会の仕組みや経済の働き、お金について学びます。ゼビオグループを含む実在の企業が参加し、仮想店舗で商品の販売や取引を行い、「供給側」と「受ける側」を交互に体験します。2022年度には東京都品川区、宮城県仙台市、福島県いわき市の3か所で約13,900名が参加しました。スポーツナビゲーターが子どもたちをサポートし、小売りの楽しさや経営の仕組みを実感し成長してもらうことを目標にしています。今後もゼビオグループは、人財や知識、ノウハウを地域に還元し、キャリア教育支援など次世代リーダーの育成に協力していきます。



「地域のライフライン」としての役割を担う



災害支援

2011年3月11日の東日本大震災で、東北はじめ複数の店舗が被害を経験しました。被災経験を持つ一企業として、災害に強い町づくりに貢献したいとの思いから、2013年に仙台市との間で災害時の物資支援や帰宅困難者支援における連携協定を締結しました。

また、震度6以上の大地震等の大規模災害が発生した際には、「スーパースポーツゼビオあすと長町店」の店内商品を一時帰宅困難者へ供給し、「ゼビオアリーナ仙台」を一時滞在場所として可能な限り水道水やトイレ、道路情報の提供します。大規模災害時には、被害を最小限に抑えつつ早期の

復旧を実現するために、行政や他企業、地域のお客様と連携しながら災害対策に取り組んでいきます。



Career Education Support

We have work experience programs for students from elementary school to university level to learn a real work experience. We will share our knowledge with the local communities, and cooperate to bring up the leaders of the next generation through our career education support.

Disaster Relief Support

In 2013, We have concluded a partnership agreement with Sendai City to provide relief supplies and support to affected locals in the event of a disaster. In case of a major disaster, we will cooperate with the government, other companies, and the local community to conduct restoration.



東京ヴェルディのスポーツ&SDGs普及活動

誰もがスポーツを楽しめる共生社会の実現



東京ヴェルディは、長年にわたってホームタウン東京都で『スポーツ&SDGs普及活動』を展開しています。

行政や企業と連携し、年間を通して『障がい者スポーツ体験教室』を開催しており、地域のスポーツ施設で障がい者スポーツ指導員の資格を持つ東京ヴェルディのコーチと一緒にスポーツを楽しむことができます。小中学校を訪問して、パラスポーツを体験してもらうプログラムも実施しており、



オンラインでの開催やスポットイベントでの指導など、年間200回を超える活動を実施しています。また、味の素スタジアムには、障がいのある方がリラックスしてJリーグを観戦できるよう、様々な障がいにあわせて部屋をカスタマイズした『Green Heart Room』を設置しています。

スナッグゴルフ体験

子どもたちにゴルフと身体を動かすことの楽しさを伝える



ヴィクトリアゴルフでは、森ビル主催の「キッズワークショップ2022～未来の地球のためにできること～」にて、「ヴィクトリアゴルフ スナッグゴルフ体験」を開催しました。

スナッグゴルフとは、Starting New At Golf(ゴルフを始めるため)の頭文字をとってSNAGと呼ばれるゴルフ競技の一つで、小さいお子様でも楽しくゴルフの基本ルールを学ぶことができ、「ゴルフ」と「体を動かすことの楽しさ」を体感しやすい競技です。



Sports & SDGs Promotion Activities of Tokyo Verdy

For many years now, Tokyo Verdy, a Japanese professional soccer team, has been promoting the "Sports and SDGs" activity in Tokyo. At Ajinomoto Stadium we installed the "Green Heart Room", where space was customized so that disabled people can relax and enjoy J.LEAGUE soccer games.

SNAG Golf Experience

Victoria Golf hosted a "Snag Golf Experience" during the "Kids Workshop 2022 - What Kids Can Do for the Future of the Earth", an event to introduce the joy of physical activity to children. A total of three sessions were held, with 45 children experiencing Snag Golf.

ゴルフクラブのリユース促進→循環

GOLF PARTNER



中古ゴルフクラブの買取と販売

中古リユース市場のうち、約1,000億円がスポーツ・レジャー市場、そのうち約800億円が中古ゴルフショップ販売市場と言われています（リフォーム産業新聞社『リサイクル通信 リユース市場データブック2021』より）。個人売買の拡大により、中古品への抵抗感も少なくなり、その市場規模は年々拡大し続けています。

その中でゴルフパートナーは50%以上の圧倒的なシェアを誇り、業界をけん引し続けています。使用しなくなったゴルフクラブを年間で約180万本買取り、新たなユーザーへ約170万本のクラブを販売することで、リユースビジネスを通じて環境と経済が両立する循環型社会の実現に貢献しています。お客様に安心してゴルフクラブの売却や購入をしていただけるよう、ゴルフパートナー独自の「買取マイスター」という資格制度を作り、日々更新されるゴルフクラブのブラッシュアップ研修を行っています。この資格を持ったスタッフを店舗に配置することで、査定時の見極めや偽物などの真贋判定など、お客様には安心して査定をお任せ頂いています。

今後もゼビオグループは、中古ゴルフ市場におけるリユース活動の推進を積極的に取り組んでいきます。



はじめてのごるふくらぶプロジェクト

ゴルフパートナーは、お客様から買い取らせて頂いたゴルフクラブを、これからゴルフをはじめのお客様へプレゼントする活動をしています。「はじめてのごるふくらぶプロジェクト」は、一人でも多くの方にゴルフをはじめたいとの思いから、ベテランゴルファーの皆様が長年愛用してきたゴルフクラブを「はじめてのゴルフマニュアル」とセットでプレゼントする活動です。2014年よりスタートしたこのプロジェクトで誕生したゴルファーは、2022年で約20万人を超えました。また、中学校や高校で体育の授業の一環としてゴルフを採用している学校や、ゴルフ部の創部の際にも、ゴルフクラブを無償で提供しています。

今後もゼビオグループは、中古ゴルフ市場におけるリユース活動の推進を通じて次世代ゴルファーの支援にも取り組んでいきます。

Secondhand Golf Clubs

We purchase 1.8 million used golf clubs and sell 1.7 million annually. Our re-use business contributes to achieving a circular society compatible with the environment and economy.

“ First Golf Club Project ”

We hand out golf clubs purchased from our customers to those who plan to start playing golf for the first time. Also, we provide golf clubs for free to schools for PE classes and for the start-up of club activities.

当社企画/開発商品の提供

お客様の立場に立った安心・安全・高品質な商品追求



ゼビオグループが開発し販売する商品の品質に関して、お客様に安心してご利用いただける商品の提供を目的に、『ゼビオグループ 衣料品・服飾品 品質管理要綱』を定め、運用しています。

①検査項目

ゼビオグループ品質基準に基づき、「染色堅牢度」「物性」等の機能性を含む生地検査および材料検査、「耐選択制(耐ドライ性)」等の製品検査を行い、その可否により取り扱いの可否を判定しています。

また、必須試験項目以外の試験項目においても確認が必要と判断される場合には、検査項目および検査方法を別途指定のうえ確認することとしています。

②安全性管理

人体へ影響を及ぼす有害物質については、厚生労働省が定める各種法令を遵守し、原料・加工剤・染料等において使用禁止および制限される物質について、適正な管理を行っています。

また、人体に危害を及ぼす危険物の混入を無くすよう、生産工場における針等の金属危険物の管理、検針体制の確認を徹底し、ゼビオグループ開発商品については、第三者機関による検品・検針の実施を必須としています。



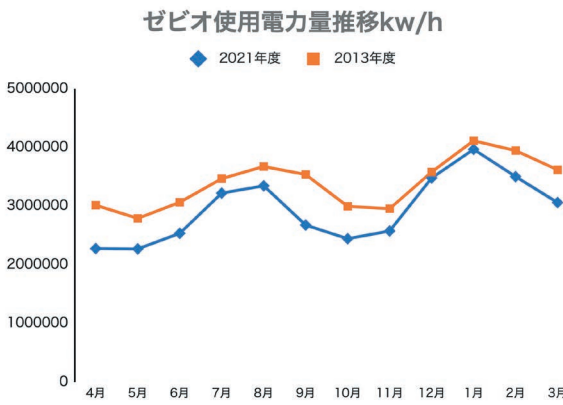
脱炭素社会の実現
Realization of Decarbonized Society

店舗内照明LED化による電気使用量の削減

ゼビオグループでは、2011年より店舗照明のLED化を進めています。店舗運営で発生する電力を削減・省電力化し、より環境に配慮した店舗の運営体制づくりと持続可能な事業展開を目指し、脱炭素社会の実現に向けて今後も取り組んでいきます。

現在進捗状況（2023年1月末現在）

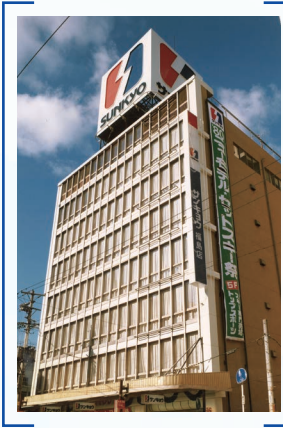
- ゼビオ(株) 2011年より新店・既存店LED化開始
177店舗中 168店舗売場LED化
- (株)ヴィクトリア 2012年より新店・既存店LED化開始
64店舗中 25店舗売場LED化
- (株)ゴルフパートナー2015年度より新店・既存店LED化開始
直営店103店舗中 91店舗売場LED化／直営練習場52店舗中 43店舗LED化
- ゼビオ削減事例（※SC内店舗を除く単独出店店舗実績）
【年間使用電力量】2013年度40,749,566Kw/h、2021年度35,339,892Kw/h、約13.3%の削減



Reduce Electrical Usage by the Use of LED

XEBIO Group has been shifting to LED since 2011. We will proceed with our effort toward a decarbonized society.

西 暦	月	事 項
1973 年	7月	紳士服販売を目的として、福島県いわき市に株式会社サンスーツを設立。
1979 年	8月	株式会社サンキョウに商号を変更し、本店を福島県郡山市に移転。
	11月	福島市の旧長崎屋ビルにファッション&スポーツをテーマとした当社初の大型店を出店。
1983 年	11月	郊外型スポーツ店の「トップスポーツ並木店」を郡山市に出店。
1984 年	10月	郊外型メンズ店の「サンキョウ安積店」を郡山市に出店。
1985 年	11月	郊外型カジュアル単独店の「メンズキャバ桑野店」を郡山市に出店。
1987 年	11月	ゼビオ株式会社へ商号を変更。
1988 年	4月	社団法人日本証券業協会東京地区協会に店頭登録。福島県郡山市朝日三丁目7番35号に新本社屋を竣工。
1990 年	5月	東京証券取引所市場第二部に上場。
	7月	当社初の郊外型ゴルフ専門店「ゼビオスポーツ勝田店」を茨城県勝田市（現・ひたちなか市）に出店。
1992 年	10月	本宮物流センター竣工。
	12月	郊外型大型複合店「スーパースポーツゼビオ仙台泉中央店（1フロア1,000坪）」を宮城県仙台市に出店。
1995 年	9月	東京証券取引所市場第一部に指定替。
1999 年	11月	国内最大級の売場面積（約2,500坪）を持ち自然をテーマにした「スーパースポーツゼビオドーム札幌月寒店」を北海道札幌市に出店。
2002 年	3月	ゼビー業態を廃止し、スポーツ業態へ統合。
2004 年	7月	ゼビオビジネスサービス株式会社を設立（現・ゼビオコーポレート株式会社）
2005 年	4月	株式会社ヴィクトリアの株式を100％取得、子会社化。
	8月	ゼビオインシュアランスサービス株式会社を設立。
2006 年	6月	ゼビオカード株式会社を設立。
2008 年	7月	ゼビオナビゲーターズネットワーク株式会社を設立。
	10月	株式会社ゴルフパートナーの株式を公開買付けにより取得し、子会社化。
2009 年	4月	株式会社ゴルフパートナーを簡易株式交換により完全子会社化。
2010 年	6月	日本最大級の体験型スポーツモール「スーパースポーツゼビオドームつくば学園東大通り店」を茨城県土浦市に出店。
2011 年	5月	クロススポーツマーケティング株式会社を設立。
2012 年	2月	中華人民共和国上海市に賽標（中国）体育用品有限公司を設立。
	4月	大韓民国ソウル市に株式会社ゼビオコリアを設立。
2013 年	12月	株式会社ネクサス設立。北東北で総合スポーツ専門店として展開していた株式会社タケダスポーツから23店舗の営業を譲り受ける。
2015 年	10月	純粋持株会社体制へ移行。ゼビオホールディングス株式会社のもとに中核会社6社を配置。
2016 年	2月	日本初のPGA TOUR公認ゴルフショップを出店。
2018 年	4月	株式会社ゼビオコリアを株式会社ゴルフパートナーコリアに商号変更。
2019 年	12月	静岡県および神奈川県内でスポーツ用品店などを展開する「シラトリグループ」と業務提携に係る基本合意書を締結。
2020 年	3月	ゼビオインシュアランス株式会社をゼビオカード株式会社へ吸収合併。
	5月	国土観光株式会社をクロスアライアンス株式会社に商号変更。
2020 年	12月	東京ヴェルディ株式会社の株式を取得し、連結子会社とする。
2021 年	10月	株式会社バステルをゼビオ株式会社へ吸収合併。
2022 年	4月	東京証券取引所の市場区分見直しにより、東京証券取引所の市場第一部からプライム市場に移行。



1973

福島県いわき市に
株式会社サンスーツを設立。



1979

福島市の旧長崎屋ビルに
ファッション&スポーツをテーマとした
当社初の大型店を出店。

1985

「メンズキャバ桑野店」を
郡山市に出店。



1999

「スーパースポーツゼビオドーム
札幌月寒店」を北海道札幌市に出店。



2009

株式会社ゴルフパートナーを
簡易株式交換により
完全子会社化。

2005

株式会社ヴィクトリアの株式を
100％取得、子会社化。



2010

「スーパースポーツゼビオドーム
つくば学園東大通り店」を
茨城県土浦市に出店。

Jul. 1973 Established as Sansuits Co., Ltd. in Iwaki City, Fukushima Prefecture, selling formal suits for men.
Nov. 1987 Trade name changed to XEBIO Co., Ltd.
Apr. 1988 New head office completed at 3-7-35, Asahi, Koriyama City, Fukushima Prefecture.
Dec. 1992 Suburban large complex "Super Sports XEBIO Izumi-Chuo Sendai" (floor area 3,30㎡), opened in Sendai City, Miyagi Prefecture.
Sep. 1995 Listing changed to the First Section of the Tokyo Stock Exchange.
Apr. 2005 Acquired 100% of shares of Victoria Co., Ltd.
Jun. 2010 Japan's largest experiential sports mall "Super Sports XEBIO Dome Tsukuba Gakuen-higashi Odori Store" opened in Tsuchiura City, Ibaraki Prefecture.
Dec. 2013 NEXAS Co., Ltd. Established.
Oct. 2015 Transition to a pure holding company completed.
Apr. 2022 Shifted from the First Section of the Tokyo Stock Exchange to the Prime Market due to revision of the Tokyo Stock Exchange's market classification.

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業の経営環境が大きく変化する中、従来型の経営手法ではグローバル化した環境変化には対応できない中で継続的に企業価値を高めていくためには、コーポレート・ガバナンスが重要な経営課題であり、また、企業活動を牽制する仕組みであると認識しています。このような中で、当社は代表取締役、取締役、監査役を中心とする相互監視ならびに社外取締役、社外監査役の選任によって、経

営の透明性、法令遵守、説明責任を確保しています。また、経営の中立性・客観性の確保及び一般株主の保護の強化を目的とし、社外役員の中より一名を独立役員として選任しています。これらにより当社は経営組織の改革に対して継続的に取り組み、コーポレート・ガバナンスの強化を進めていきます。

会社の機関の内容及び内部統制システムの整備状況

当社は、2015年10月1日より純粋持株会社体制に移行しました。持株会社の傘下には、6社の中核子会社（グループ内子会社群を機能別にグルーピングしたチームのHQとしてチーム内のその他子会社に関する管理責任と権限を有する）を配置し、グループシナジーの醸成とグループガバナンスの強化を果たす体制を採用しています。

Basic Concept of Corporate Governance

In a world where the business environment is changing rapidly and conventional management approaches fail to meet changes in the global economy, XEBIO Group recognizes that corporate governance is a crucial management challenge and its system plays a dominant role in controlling corporate activities for up-scaling corporate value. We commit to continuously innovate the company's management systems and strengthen corporate governance practices.

取締役会と執行役員制度

2023年6月29日現在、取締役会は取締役6名（うち社外取締役4名）で構成されており、経営の管理・監督と業務執行の明確な分離及び迅速な意思決定と責任の明確化を推し進めるべく、執行役員制度を導入しています。なお執行役員には、グループガバナンス強化の観点より、中核子会社の執行権限と、責任を担う中核子会社社長を中心に任命しています。経営の基本方針に関する重要事項を検討する機関といたしましては、代表取締役及び執行役員が構成メンバーになっている「グループ経営会議」を定期的開催しています。なお、取締役の任期につきましては1年とし、経営責任をより明確にしています。

監査役会

当社は、監査役会設置会社であります。監査役会は、社外監査役2名（財務、税務の専門家）と1名の常勤監査役が、それぞれの立場から取締役を監視・監査しています。また、内部監査室と毎月報告会を開催し、相互連携を図っています。会計監査は、有限責任監査法人トーマツが会計監査業務を担っています。内部監査室、監査役及び会計監査人は、それぞれの間で定期的な連絡会を開催して報告を受けるなど連携を密にし、監査の有効性と効率性の向上に努めています。

ガバナンス委員会

グループの持続的な成長と中長期的な企業価値向上に重要な事項について、実効性のある議論を行う場として、代表取締役と社外取締役及び社外監査役で構成される諮問機関として設置しています。

コンプライアンス委員会

各会社に設置しているコンプライアンス推進機関を総括的に管理し、各社状況の確認と指導、並びに各会社で発生する事例を共有することで、グループ全体として更なるコンプライアンスの推進を担うことを目的として設置しています。

人事・報酬委員会

取締役の指名・報酬等に係る取締役会の機能の独立性・客観性と説明責任を強化することを目的として、取締役である委員3名以上、うち過半数は独立社外取締役で構成される任意の諮問機関として設置しています。

サステナビリティ委員会

サステナビリティを巡る課題への対応が重要な経営課題であるとの認識のもと、サステナビリティ委員会を取締役会直下の機関として任意に設置し、重要な課題・指標の決定については、取締役会で決議することで、その取組みの更なる推進を図っています。

各種検討会

取締役会に付議する重要案件を精査・検討する機関として「投資検討会」「資産管理検討会」「グループシナジー検討会」を設置しています。

内部監査室

内部監査は、内部監査室を設置し室長以下スタッフが全てのグループ内関係会社の業務・内部統制監査を実施し、監査役とともにリスク管理とコンプライアンスの徹底・指導強化に努めています。

XEBIO Group's Corporate Governance Structure

The Board of Directors and Operating Officer System, the Board of Corporate Auditors, the Governance Committee, the Compliance Committee, the Human Resources and Remuneration Review Committee, the Sustainability Committee, the Internal Audit Office, the Advisory Board and various assessment committees.



商 号	ゼビオホールディングス株式会社 (XEBIO Holdings Co., Ltd.)	東京オフィス	東京都千代田区神田錦町三丁目20番
本社所在地	〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目7番35号		錦町トラッドスクエア14階
電 話	024-938-1111 (代表)	U R L	https://www.xebio.co.jp/ja/

中核会社



商 号	ゼビオ株式会社 (XEBIO Co., Ltd.)
本社所在地	〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目7番35号
東京オフィス	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目20番 錦町トラッドスクエア14階
事業内容	スポーツ用品・用具、紳士・婦人・子供服の販売
電 話	024-938-1111 (代表)
U R L	https://www.supersports.co.jp/



商 号	クロススポーツマーケティング株式会社 (Xross Sports Marketing Co., Ltd.)
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目20番 錦町トラッドスクエア14階
事業内容	マーケティング事業、リサーチ・コンサルティング事業、 イベント・プロモーション事業、プロパティ管理事業
電 話	03-5282-7655 (代表)
U R L	https://www.xsmktg.com/

Victoria

商 号	株式会社ウィクトリア (Victoria Co., Ltd.)
本社所在地	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町二丁目4番14号 フィールドクレストビル6階
事業内容	スポーツ用品販売
電 話	03-5282-7700 (代表)
U R L	https://www.victoria.co.jp/

CrossTechSports

商 号	クロステックススポーツ株式会社 (Cross Tech Sports Co., Ltd.)
本社所在地	〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目7番35号
東京オフィス	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目20番 錦町トラッドスクエア2階
事業内容	海外窓口業務、R&D業務
電 話	03-3294-7351 (代表)

GOLF PARTNER

商 号	株式会社ゴルフパートナー (GOLF Partner Co., Ltd.)
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目20番 錦町トラッドスクエア13階
事業内容	総合ゴルフショップ「ゴルフパートナー」 フランチャイズチェーン事業、「フェスティバルゴルフ」事業、 練習場事業
電 話	03-5217-9700 (代表)
U R L	https://www.golfpartner.co.jp/



商 号	ゼビオコミュニケーションネットワークス株式会社 (Xebio Communication Networks Co., Ltd.)
本社所在地	〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目7番7号
東京オフィス	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町三丁目4番2号 御茶ノ水三四ビル
事業内容	インターネットビジネス全般
電 話	024-927-7715 (代表)

主な連結子会社



商 号	ゼビオカード株式会社 (Xebio Card Co., Ltd.)
本社所在地	〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目2番24号
事業内容	クレジットカード事業、割賦販売事業等



商 号	ゼビオコーポレート株式会社 (Xebio Corporate Co., Ltd.)
本社所在地	〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目7番7号
東京オフィス	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目20番 錦町トラッドスクエア14階
事業内容	バックオフィスシェアード業務
電 話	024-925-2510 (代表)

取締役及び監査役 / Directors & Corporate Auditors



代表取締役
諸橋 友良
President
Tomoyoshi Morohashi



取締役
北澤 猛
Director
Takeshi Kitazawa



社外取締役 ※1
谷代 正毅
External Director *1
Masatake Yashiro



社外取締役 ※1
石綿 学
External Director *1
Gaku Ishiwata



社外取締役 ※1
岩本 保
External Director *1
Tamotsu Iwamoto



社外取締役 ※1
住田 智子
External Director *1
Tomoko Sumida



常勤監査役
干川 勇一
Full-time Corporate Auditor
Yuuichi Hoshikawa



社外監査役 ※2
小谷野 幹雄
External Corporate Auditor *2
Mikio Koyano



社外監査役 ※2
菅野 仁
External Corporate Auditor *2
Hitoshi Kanno

※1 会社法第2条第15号に定める社外取締役 ※1 External director as stipulated in Article 2 Paragraph 15 of the Companies Act
※2 会社法第2条第16号に定める社外監査役 ※2 External corporate auditor as stipulated in Article 2 Paragraph 16 of the Companies Act

執行役員 / Corporate Officers



副社長執行役員
クロススポーツマーケティング株式会社
代表取締役社長兼執行役員
中村 考昭
Vice President, Corporate
Officer and President of Xross
Sports Marketing Co., Ltd.
Takaaki Nakamura



副社長執行役員
ゼビオコミュニケーション
ネットワークス株式会社
代表取締役社長兼執行役員
島貫 慶太
Vice President, Corporate Officer
and President of Xebio
Communication Networks Co., Ltd.
Keita Shimanuki



副社長執行役員
ゼビオコーポレート株式会社
取締役副社長兼執行役員
近野 泰
Vice President, Corporate
Officer and Vice President of
Xebio Corporate Co., Ltd.
Yasushi Konno



執行役員
株式会社ゴルフパートナー
代表取締役社長兼執行役員
石田 純哉
Corporate Officer and
President of Golf Partner
Co., Ltd.
Junya Ishida

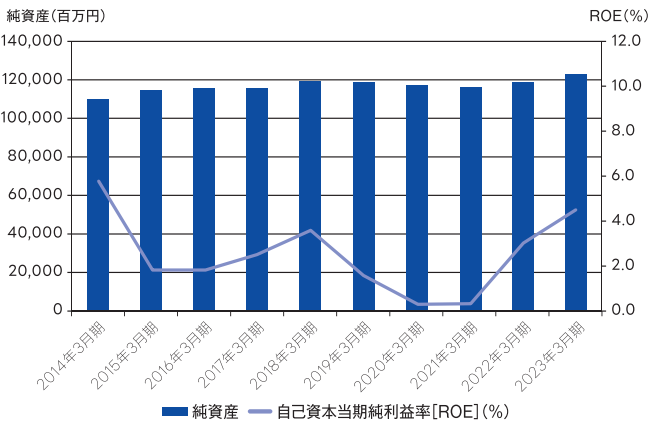
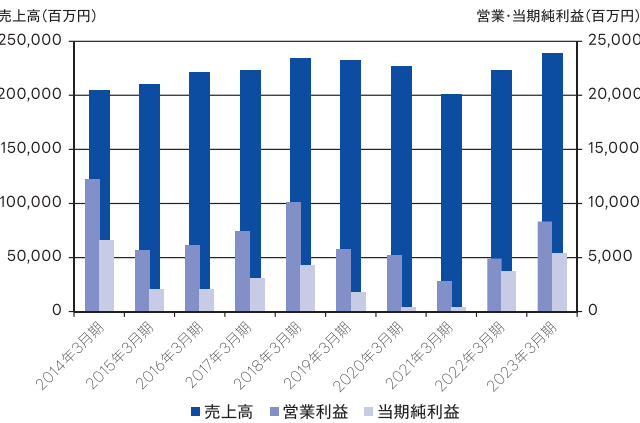


執行役員
クロスステックススポーツ株式会社
代表取締役社長兼執行役員
村井 宏行
Corporate Officer and
President of Cross Tech
Sports Co., Ltd.
Hiroyuki Murai

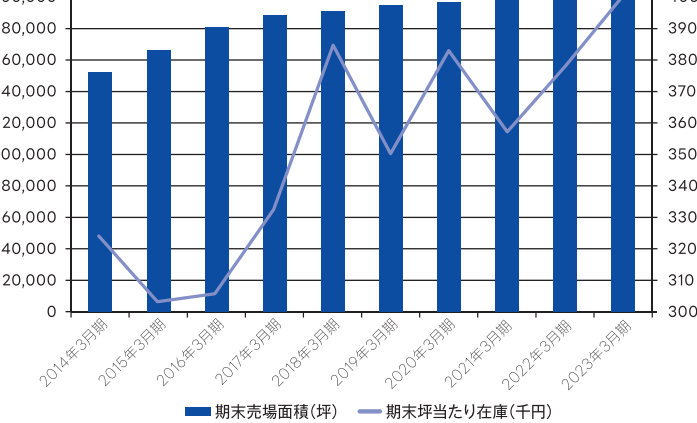
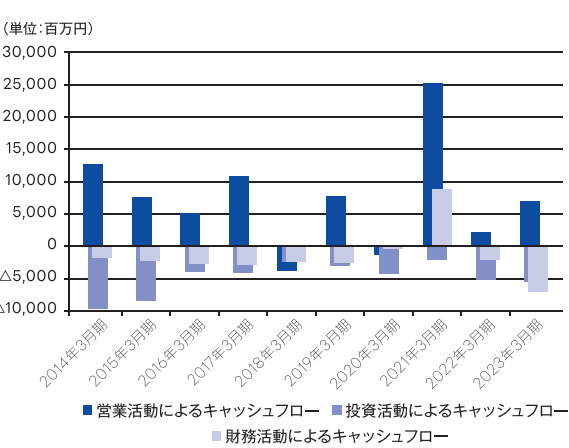


執行役員
ゼビオコーポレート株式会社
取締役副社長兼執行役員
中村 和彦
Corporate Officer and Vice
President of Xebio Corporate
Co., Ltd.
Kazuhiko Nakamura

財務ハイライト	(単位：百万円)			
	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
経営成績				
売上高	204,779	210,672	221,391	223,353
売上総利益	81,403	80,850	85,614	89,171
営業利益	12,295	5,654	6,169	7,428
経常利益	12,985	6,432	6,396	7,499
当期純利益	6,618	2,084	2,120	2,991
財政状況				
流動資産	106,081	105,153	106,759	117,908
有形固定資産	40,439	40,663	41,439	39,391
無形固定資産	8,037	8,233	7,706	6,470
投資その他資産	26,825	27,648	24,969	24,973
資産合計	181,383	181,698	180,875	188,744
流動負債	59,198	57,231	56,791	63,761
固定負債	7,606	8,685	8,426	8,203
純資産	114,579	115,781	115,657	116,779
キャッシュフロー				
営業活動によるキャッシュフロー	12,385	7,424	5,138	10,444
投資活動によるキャッシュフロー	△9,552	△8,427	△3,913	△4,090
財務活動によるキャッシュフロー	△1,794	△2,293	△2,574	△2,882
1株当たり情報				
1株当たり純資産 (円)	2,534.30	2,560.85	2,556.27	2,603.52
1株当たり当期純利益 (円)	146.91	46.24	46.95	66.89
1株当たり配当金 (円)	35.00	35.00	35.00	35.00
財務指標				
自己資本当期純利益率 [ROE] (%)	5.8	1.8	1.8	2.6
総資産経常利益率 [ROA] (%)	7.4	3.5	3.5	4.0
自己資本比率 (%)	63.0	63.6	63.8	61.6
その他データ				
期末売場面積 (坪)	166,168	180,796	188,755	193,193
期末坪当たり在庫 (千円)	324	303	305	333



(単位：百万円)					
2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
234,595	231,629	225,312	202,438	223,282	239,293
92,761	87,896	88,727	78,820	87,053	91,773
10,921	5,766	5,247	2,767	4,999	8,327
11,389	6,725	5,842	4,342	7,851	9,242
4,249	1,884	408	412	3,836	5,397
119,932	118,104	118,397	146,628	147,012	145,805
35,853	33,857	34,316	31,899	31,891	35,385
5,627	6,181	5,035	5,327	5,495	6,784
26,718	25,912	25,172	23,626	23,908	23,325
188,131	184,054	182,921	207,482	208,308	211,300
60,349	56,982	54,980	69,793	74,684	72,177
8,099	8,591	10,689	21,336	14,915	16,555
119,682	118,481	117,251	116,353	118,708	122,567
△3,887	7,572	△ 1,305	25,369	2,235	7,020
△2,363	△ 3,010	△ 4,299	△ 2,019	△ 5,164	△ 5,477
△2,427	△ 2,658	△ 418	8,511	△ 2,119	△ 7,911
2,665.51	2,667.14	2,640.13	2,621.34	2,674.23	2,760.04
95.08	42.41	9.23	9.32	86.77	122.09
35.00	35.00	32.50	30.00	30.00	30.00
3.6	1.6	0.3	0.4	3.3	4.5
6.1	3.6	3.2	2.1	3.7	4.3
63.3	64.1	63.8	55.9	56.8	57.7
191,890	195,673	196,919	198,581	200,527	198,738
389	350	382	357	378	406



連結貸借対照表

(単位:百万円)		
	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当連結会計年度 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	39,893	32,890
受取手形及び売掛金	22,477	23,414
営業貸付金	967	878
商品	75,921	80,714
未収還付法人税等	1	157
その他	8,043	8,188
貸倒引当金	△ 292	△438
流動資産合計	147,012	145,805
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	50,403	52,445
減価償却累計額	△ 36,192	△38,560
建物及び構築物(純額)	14,211	13,885
土地	13,910	13,984
リース資産	2,780	6,091
減価償却累計額	△ 1,424	△1,853
リース資産(純額)	1,356	4,238
建設仮勘定	75	291
その他	21,304	22,463
減価償却累計額	△ 18,965	△19,477
その他(純額)	2,339	2,985
有形固定資産合計	31,891	35,385
無形固定資産		
のれん	716	330
ソフトウェア	1,854	3,831
その他	2,924	2,622
無形固定資産合計	5,495	6,784
投資その他の資産		
投資有価証券	727	953
長期貸付金	24	12
繰延税金資産	4,852	4,574
差入保証金	1,851	1,465
敷金	14,142	14,013
投資不動産	3,126	3,120
減価償却累計額	△ 1,276	△1,289
投資不動産(純額)	1,849	1,831
退職給付に係る資産	139	103
その他	582	539
貸倒引当金	△ 260	△168
投資その他の資産合計	23,908	23,325
固定資産合計	61,295	65,494
資産合計	208,308	211,300

株式情報 (2023年3月31日現在)

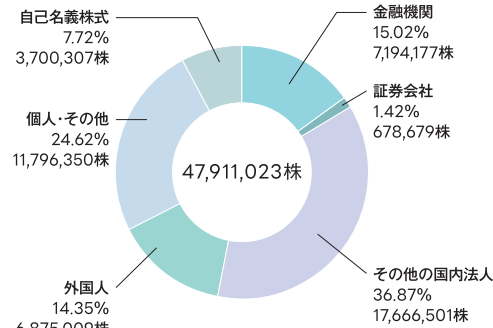
証券コード: 8281
上場証券取引所:
東京証券取引所市場第一部

株式の状況
発行可能株式総数 135,000,000株
発行済株式の総数 47,911,023株
株主数 41,785名

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社サンビック	8,252,605	18.7
公益財団法人諸橋近代美術館	4,500,000	10.2
有限会社ディー・ティー・シー	4,121,466	9.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,496,800	8.2
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,564,100	3.5
諸橋 輝子	1,392,364	3.1
諸橋 友良	1,173,850	2.7
諸橋 寛子	900,897	2.0
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	659,215	1.5
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	631,103	1.4

※1.当社は、自己株式3,700,307株を保有しており、上記の大株主から除外しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。
※2.信託銀行の所有株式数には、信託業務に係る株式数が含まれております。

所有者別 株式分布状況



連結損益計算書

(単位:百万円)		
	前連結会計年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当連結会計年度 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
売上高	223,282	239,293
売上原価	136,228	147,519
売上総利益	87,053	91,773
販売費及び一般管理費	82,054	83,446
営業利益	4,999	8,327
営業外収益		
受取利息	49	76
受取配当金	10	11
不動産賃貸料	634	717
為替差益	559	323
業務受託料	299	321
助成金収入	1,663	114
その他	677	365
営業外収益合計	3,893	1,931
営業外費用		
支払利息	120	64
不動産賃貸費用	478	451
業務受託費用	272	343
その他	171	157
営業外費用合計	1,041	1,016
経常利益	7,851	9,242
特別利益		
固定資産売却益	4	5
投資有価証券売却益	—	173
受取保険金	111	72
新株予約権戻入益	28	143
預り保証金解約益	—	135
関係会社株式売却益	149	—
預り保証金解約益	—	9
特別利益合計	293	538
特別損失		
固定資産除却損	290	122
固定資産売却損	17	0
減損損失	1,293	655
災害による損失	39	—
店舗閉鎖損失	1	—
投資有価証券評価損	149	—
関係会社株式売却損	19	—
事業整理損	—	49
賃貸借契約解約損	120	116
特別損失合計	1,930	944
税金等調整前当期純利益	6,214	8,836
法人税、住民税及び事業税	2,950	3,032
法人税等調整額	△ 588	209
法人税等合計	2,361	3,241
当期純利益	3,853	5,594
非支配株主に帰属する当期純利益	17	196
親会社株主に帰属する当期純利益	3,836	5,397

連結包括利益計算書

(単位:百万円)		
	前連結会計年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当連結会計年度 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
当期純利益	3,853	5,594
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	138
為替換算調整勘定	157	△440
退職給付に係る調整額	43	24
その他の包括利益合計	222	△278
包括利益(内訳)	4,075	5,316
親会社株主に係る包括利益	4,070	5,138
非支配株主に係る包括利益	5	178

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)		
	前連結会計年度 (自2021年4月1日 至2022年3月31日)	当連結会計年度 (自2022年4月1日 至2023年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	6,214	8,836
減価償却費	3,803	3,640
減損損失	1,293	655
のれん償却額	444	427
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△124	53
賞与引当金の増減額(△は減少)	446	△170
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△938	△12
契約負債の増減額(△は減少)	873	△89
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△24	△42
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	66	35
受取利息及び受取配当金	△59	△88
支払利息	120	64
受取保険金	△111	△173
助成金収入	△1,663	△114
固定資産売却益	△4	△5
新株予約権戻入益	△28	△135
関係会社株式売却損益(△は益)	△130	—
預り保証金解約益	—	△9
固定資産除却損	290	122
投資有価証券評価損益(△は益)	149	—
固定資産売却損	17	0
災害による損失	39	—
店舗閉鎖損失	1	—
賃貸借契約解約損	120	116
事業整理損	—	49
受取移転補償金	—	△143
受取和解金	—	△72
売上債権の増減額(△は増加)	△1,209	△718
営業貸付金の増減額(△は増加)	185	89
棚卸資産の増減額(△は増加)	△6,162	△4,581
仕入債務の増減額(△は減少)	584	1,846
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,993	750
その他	587	△176
小計	1,786	10,155
利息及び配当金の受取額	59	88
利息の支払額	△117	△66
法人税等の支払額	△2,339	△3,768
法人税等の還付額	1,066	108
保険金の受取額	115	173
助成金の受取額	1,663	114
移転補償金の受取額	—	143
和解金の受取額	—	72
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,235	7,020
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,521	△3,357
有形固定資産の売却による収入	26	27
有形固定資産の除却による支出	△230	△101
無形固定資産の取得による支出	△1,265	△2,184
投資不動産の取得による支出	△8	—
投資有価証券の取得による支出	△212	△21
投資有価証券の売却による収入	3	—
敷金及び保証金の差入による支出	△780	△490
敷金及び保証金の回収による収入	757	569
預り保証金の返還による支出	△28	△10
預り保証金の受入による収入	30	22
その他	64	68
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,164	△5,477
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	370	30
長期借入金の返済による支出	△305	△6,020
長期借入れによる収入	—	220
リース債務の返済による支出	△759	△755
自己株式の取得による支出	△0	△0
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△67	△59
配当金の支払額	△1,356	△1,326
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,119	△7,911
現金及び現金同等物に係る換算差額	619	△634
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△4,429	△7,003
現金及び現金同等物の期首残高	44,323	39,893
現金及び現金同等物の期末残高	39,893	32,890